

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

二〇一五年度入試問題

国語

第三回（二月二日午前実施）



二〇一五年度

入学試験問題

(二月二日午前)

国語

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙九ページ、解答用紙二枚を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事がある時は、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 目にも止まらない早業。
- (2) 著しい進歩をとげた企業。
- (3) 質問に口頭で答える。
- (4) メンバーを刷新して出直す。
- (5) 綿密な計画を立てる。
- (6) 飛行機をソウジユウする。
- (7) 持っているとチヨウホウする。
- (8) 欧米諸国からキユウエン物資が届く。
- (9) 途方にクれる。
- (10) 機械がコシヨウする。

次の(1)～(5)の() に入ることわざとして正しいものを、あとのア～オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1) A君 「昨日のサッカーの試合、油断したせいで負けちゃった。」
あなた「まさに() だね。」

(2) A君 「あ、B君とC君がまたケンカしてる！よし、僕も参戦しよう！」
あなた「やめなよ！() ような真似は！」

(3) A君 「今日のテストの勉強やっていないや。あと五分で覚えようかな。」
あなた「いまさらやっても() だよ。」

(4) A君 「今日の算数の授業、テストだって！」
あなた「聞いてないよ！() とはこのことだ！」

(5) A君 「B君がまた先生に怒られている。僕も気をつけないと。」
あなた「そうだね。() だ。」

ア 人のふり見て我がふり直せ

イ 河童かわづまの川流れ

ウ 寝耳ねみみに水

エ 焼け石に水

オ 火に油を注ぐ

三

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

(著作権上の問題により文章は掲載できません。類似問題については直接お問い合わせ下さい。)

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(なお、作問の都合上省略した部分があります。)

「失敗学」における基本的姿勢は、私たちの身近で繰り返される失敗を（あ）的にとらえるのではなく、むしろプラス面に着目してこれを有効利用しようという点にあります。

（１）、失敗の特性を理解し、不必要な失敗を繰り返さないとともに、失敗からその人を成長させる新たな知識を学ぼうというのが「失敗学」の趣旨なのです。別のいい方をすれば、マイナスイメージがつかまとう失敗を忌み嫌わずに直視することで、失敗を新たな創造というプラス方向に転じさせて活用しようというのが「失敗学」の目指すべき姿です。

失敗体験に積極的に学ぼうとする「失敗学」が生まれた背景には、^①失敗を恥と^は考えず、これを真正面から受け止めることで多くのことを学んできた私自身の経験があります。もともと実際には大学で「失敗学」という名の講義を私が行ってきたわけはありません。

私自身は、大学ではふだん機械工学という学問を教えています。その中で、学生たちの理解を实のあるものにしようといういと効果的な指導法を考えてきましたが、いわばその過程でごく自然な形で生まれたのが、「失敗学」なのです。

当初、私はこれに特別な名前もつけず、学生たちを指導する際には、^②そのエッセンスのみを伝えてきました。（２）、失敗は社会のありとあらゆる場面にあります。機械工学とは無縁の^{えん}そうした失敗についても目を向け、これを分析するうちに、世の中の多くの失敗もまたこれを真正面から見つめることが、不必要な失敗の防止になり、さらには新たな創造につながるということを知りました。そこで、このエッセンスをあらためてまとめようと考えたわけです。

じつは、そのときは「失敗学」という名前は考えていませんでした。立花隆さんとお会いした際、私が失敗についての話をいろいろしたところ、

「それだけ広範囲に失敗を取り上げるんだったら、『失敗学』というひとつの学になりますね」といわれたので、その言葉を使わせてもらうことにしたのです。

人はなぜ失敗に学ぶ必要があるのでしょうか。「失敗学」の基本的なスタンスでもあるこのテーマを考える上での重要なヒン

トは、これもまた私自身の体験の中にありました。

プロローグでも簡単に触れましたが、学生たちへの指導を通じて痛感したのは、失敗することを決して否定的にとらえてはならないということです。また、教育現場で真に求められているのは、正しい知識の伝達もさることながら、物事に挑戦し、失敗による体感・実感を基にして、^③本当に使える知識を獲得させることです。

機械工学を学ぶ学生たちはエンジニアの初心者、デザインを学ぶ学生はデザイナーの初心者、経済学を学ぶ学生はエコノミストの初心者といえます。(3)、どこの教育現場でも事情は同じかと思いますが、彼らのような初心者の学習と失敗とは、本当に切っても切れない密接な関係にあります。

実際、エンジニアの初心者には、お手本となるサンプルを一切あたえずに自分自身でもものをつくらせてみると、誰しもはじめはまともなものなどつくれず、まず間違いなく失敗します。デザイナーやエコノミストの初心者もわかりで、手本を示さずに知識のないゼロの状態からデザインなり投資計画なりを立てさせても、まともなものなどできるはずがありません。

このとき向上心の強い初心者ほど、「痛い」「つらい」「損をした」という気分を味わい、強い挫折感を感じるものです。むしろこの挫折感、あらかじめ手本を示してこれをマネさせる、いわば^④正解への最短の道を進む指導をすれば避けて通ることもできるのですが、その場合、本人はほとんどなにも得られません。

つまり、どちらの指導方法を採用かで、両者の間に明らかかな差が生じるというのが、長年の指導経験で得た答えだったので。結論からいえば、最初のうちに、あえて挫折経験をさせ、それによって知識の必要性を体感・実感しながら学んでいる学生ほど、どんな場面にも応用して使える真の知識が身につくことを知りました。

この学習方法は、学生たちがそれまで慣れ親しんできた勉強方法とは明らかに異なります。受験用の勉強は、与えられた設問への答えの出し方を最短距離で学ぶ、まさに合理的学習法ですが、残念ながらこれだけでは吸収した知識を本当に身につけることはできません。とおりいっぺんの形だけの知識は身につくものの、それは深い部分にまでは根づかず、したがって本当の意味での自分の知識として使うことができないからです。

この隙間を埋めるには、(4) 体感・実感がともなった体験学習が必要で、失敗することを厭わず、失敗体験を積極的に活用する必要があります。

これは、子どもの教育全般ぱんぱんなどにもそのままいえます。「こうすれば失敗しない、こうすれば成功する」「これはダメ、あれはダメ」という教育方法では、やはり知識の表面的な理解しかできません。そこに欠落している深い理解なしには応用力は身につかないのです。無駄だを省いた合理的学習法は好んで使われているものの、その弱点についてあらためて考え直す必要があります。

実際、必要な失敗をあえて経験させながら、子ども自身が学び取るようにしてはじめて、（い）

たとえば、ナイフは危ないから気をつけろといっているうちに、いまでは学校でも家でもナイフを子どもたちが使う機会ほとんどなくなりました。その結果子どもたちは、たしかにナイフを使って手を切ることはなくなり「安全」を手に入れましたが、一方ではナイフで手を切るといふ小さな失敗をする経験を奪うばわれたともいえるのです。おそらくナイフで手を切るといふ痛い経験をしていない子どもは、ナイフが実際どれくらい危険なものか、きちんと理解できないまま成長することになります。

「小さな失敗を不用意に避けることは、将来起こりうる大きな失敗の準備をしていることだ」ということを、もっと私たちは知るべきなのです。

（畑村 洋太郎『失敗学のすすめ』より）

問一 本文中の（あ）にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 否定 イ 反対 ウ 賛成 エ 応用

問二 本文中の（１）～（４）にあてはまる言葉を、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア ところが イ そして ウ つまり エ やはり

問三 ——— 線部①「失敗を恥はじと考えず、これを真正面から受け止めることで多くのことを学んできた」とありますが、これと似た意味を持つことわざを一つ答えなさい。

問四 ——— 線部②「そのエッセンス」とありますが、その内容が書かれている部分を、本文中から五十字で抜き出し、始めと終わりの五字ずつを答えなさい。

問五 ——— 線部③「本当に使える知識」とありますが、同じ意味で使われている部分を、本文中から十五字以上二十字以内で抜き出して答えなさい。

問六 ——— 線部④「正解への最短の道を進む指導」とありますが、図工の授業で棚たなを作るとき、「正解への最短の道を進む指導」にあてはまるものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 設計図と、必要なパーツを作るための木の板を渡わたして、棚を作らせる。

イ 材料となる木の性質・特徴ちゆうとくを学んでから、棚を作らせる。

ウ 完成品の棚を分解して、バラバラになったパーツを配り、棚を作らせる。

エ 二人一組のグループを組ませ、棚を作らせる。

問七 本文中の（い）にあてはまる一文として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 子どもの判断能力は増加するものです。

イ 合理的学習法は成功と言えるのです。

ウ 知識の表面的な理解につながるのです。

エ 失敗を経験したことになるのです。

問八 本文の組み立ての説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 最も伝えたいことを何度も何度も繰り返して述べ、具体例などは一切書いていない。

イ 最初に最も伝えたいことを提示し、その具体例などを後に述べている。

ウ 具体例を最初に提示し、最も伝えたいことを最後に述べている。

エ たとえ話を多用し、最も伝えたいことをぼかしている。

問九 次のア～エのうち、本文の内容にあうものは○、そうでないものは×を答えなさい。

- ア エンジニアの初心者には、お手本などを示さずに作業に入らせても、初めから素晴らしいものを作り上げることが出来た。
- イ 失敗を恐れて避けるのではなく、失敗から学習するため、まずは積極的に失敗をするべきである。
- ウ 失敗したときに、そのことを辛い・悔しいと感じる者の方が、向上心が低いと言える。
- エ 合理的学習法は、効率よく学ぶことが出来るが、知識は深い部分には根付かない。

問十 あなたが「失敗から学んだ体験」について、その体験をあげ、学んだことを二百字以内で書きなさい。

*実際の解答用紙はB4判です。

四

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八	問十
1	2	3	4	イ	エ	オ	カ	キ
開始	終了							

小計	四
*	

受験番号			
------	--	--	--

氏名	
----	--

得点	*
----	---

*印のことは、何も記入しないでください。

合格者正解率

国語

第3回 2月2日午前 (%・100点満点)

① 漢字	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	41.4	51.7	75.9	65.5	93.1	69.0	44.8	31.0	75.9	86.2
② 語句	1	2	3	4	5					
	79.3	93.1	79.3	89.7	93.1					
③ 視写	49.1									
④ 長文読解	1	21	22	23	24	3	4始	4終	5	6
	93.1	65.5	44.8	34.5	79.3	47.1	26.4	26.4	47.1	24.1
	7	8	9ア	9イ	9ウ	9エ	10			
	20.7	51.7	93.1	10.3	89.7	65.5	51.7			

☆合格者平均点 54.5

☆合格者最高点 72